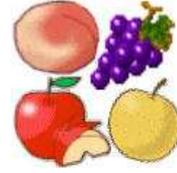


平成24年度 果樹情報 第6号

(平成24年6月6日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (5月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は4半旬が16.2℃で平年より0.2℃低く、5半旬が16.1℃で平年より1.1℃低く、6半旬が17.1℃で平年より0.7℃低い状況でした。この期間の降水量は56.5mmで平年の111%でした。

2 土壌の水分状況 (5月31日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培リング園) は、深さ20cmが2.0、深さ40cmが1.7、深さ60cmが1.8で、適湿条件の範囲です。

3 生育概況 (果樹研究所)

(1) モモ

ア 果実肥大 (6月1日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が29.9mmで平年比91%、側径が21.2mmで平年比81%、「ゆうぞら」は縦径が29.4mmで平年比86%、側径が18.8mmで平年比75%と両品種ともに小さく、果実の肥大は遅れています。

また、満開後30日 (5月29日) による比較では、「あかつき」「ゆうぞら」ともに、平年より大きい状況です。

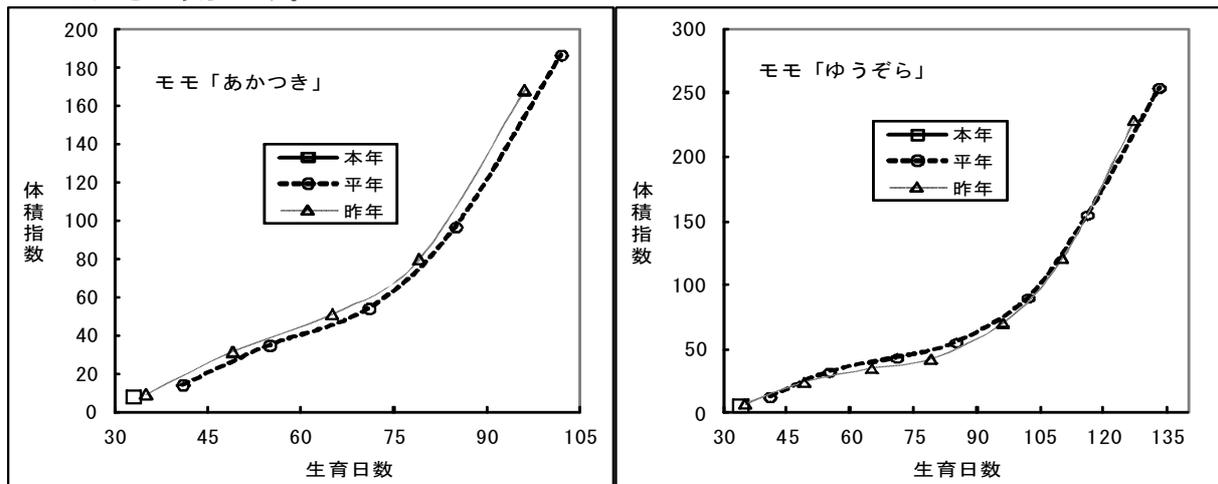


図1 モモの果実肥大 (6月1日現在)

イ 新梢生長 (満開後30日現在)

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が5.2cmで平年比113%と長く、展葉数は8.9枚で平年比94%と少なく、葉色は平年比93%と淡い状況です。

ウ 双胚果と核障害の発生 (満開後30日現在)

双胚果発生率は、「あかつき」が4.4% (平年10.2%)、「ゆうぞら」が15.8% (平年27.0%)と両品種ともに平年より少ない状況です。また、「あかつき」の核障害は、核頂部の亀裂の発生率が27.0%で、平年 (39.6%) より少なく昨年 (19.2%) より多い状況です。

エ 発育予測 (6月1日現在)

今後の気温が平年並みに経過した場合、「あかつき」の硬核期開始日は6月17日頃で平年より6日程度遅い見込みです。また、収穫開始日は8月9日で、平年より7日程度遅れる見込みです。

(2) ナシ

ア 果実肥大 (6月1日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が21.3mmで平年比103%、横径が23.4mmで平年比103%とほぼ平年並み、「豊水」は縦径が21.4mmで平年比95%、横径が22.4mmで平年比98%とやや小さい状況です。

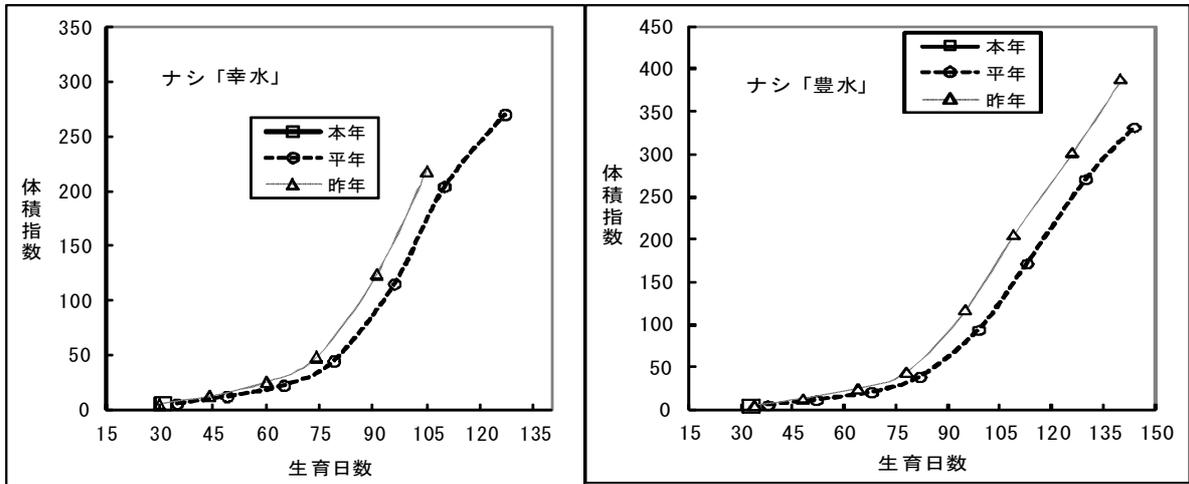


図2 ナシの果実肥大 (6月1日現在)

イ 新梢生長 (満開後30日現在)

「幸水」の新梢生長は、新梢長 (予備枝) が38.6cmで平年比107%とやや長く、葉枚数が15.6枚で平年比111%と多く、葉色は平年比102%とほぼ平年並みの状況です。「豊水」は新梢長 (予備枝) が59.9cmで平年比142%と長く、葉枚数が16.8枚で平年比121%と多く、葉色は平年比109%と高い状況です。

(3) リンゴ

ア 果実肥大 (6月1日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が26.3mmで平年比92%、横径が25.5mmで平年比89%、「ふじ」は縦径が25.1mmで平年比93%、横径が21.5mmで平年比88%と両品種ともに小さく、果実の肥大は遅れています。

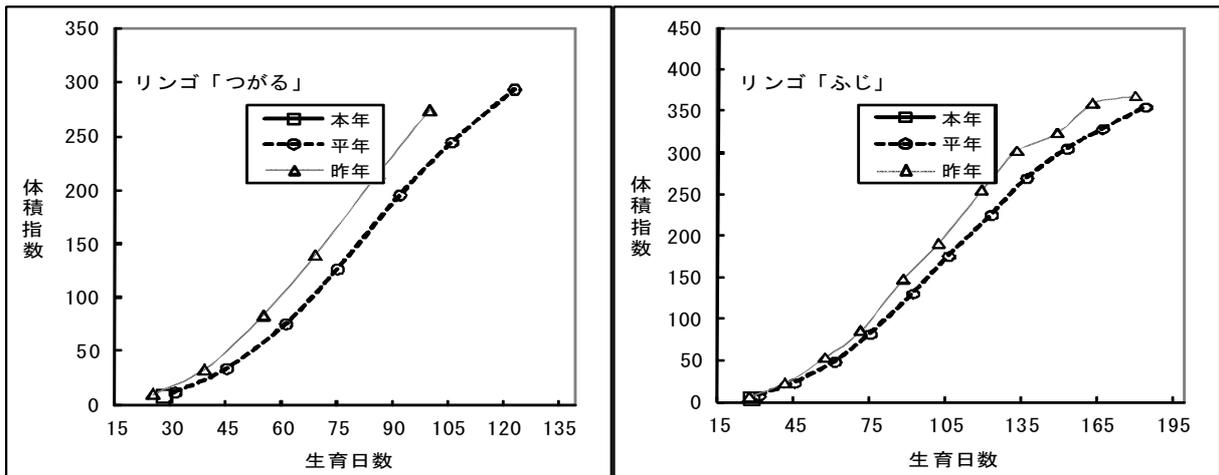


図3 リンゴの果実肥大 (6月1日現在)

イ 新梢生長 (満開後30日現在)

「つがる」の新梢長は23.0cmで平年比131%と長く、新梢停止率は0%。「ふじ」の新梢長は21.5cmで平年比117%と長く、新梢停止率は46.7%となっています。

ウ 結実状況

「つがる」の中心果結実率は72.9%（平年94.0%）、「ふじ」は59.3%（平年73.0%）で平年より低い状況ですが、最終着果量に対する結実量は十分な状況となっています。

(4) ブドウ

ア 新梢生長（発芽後30日現在）

「巨峰」の新梢長は43.6cmで平年比139%と長く、展葉数は8.6枚で平年比127%と多い状況です。

イ 発育予測（6月1日現在）

今後の気温が平年並みに経過した場合、「巨峰」の開花始めは6月13日頃で平年より7日遅く、満開は6月16日頃で平年より6日遅いと予測されます。

4 栽培管理上の留意点

(1) モモ

ア 仕上げ摘果

本年の硬核期開始日は6月17日頃（果樹研究所）と予想されるので、この頃までを目安に仕上げ摘果を実施しましょう。摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減します。

本年の「あかつき」の双胚果の発生は平年より少なく、核障害は平年よりやや少ない状況となっていますが、園地によっても発生状況は異なるので、確認した上で摘果を実施しましょう。双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果で着果量をやや多めとし、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。

ひょう害を受けた園では、傷の状況を確認しながら丁寧に摘果を行きましょう。

イ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が盛んな時期であり、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混雑しやすくなります。このため、樹冠内部や主枝、垂主枝の基部、側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施しましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか、最小限とします。

ウ 樹勢回復対策

低温の影響から開花期が遅れ、品種により結実のバラツキが見られるものの、満開後日数の比較では果実肥大は良好です。また、新梢伸長は平年を上回っているものの葉色が淡い傾向にあり、着果量の多い樹では樹勢衰弱が懸念されます。新梢伸長の抑制や葉色の低下が見られつつあるため、樹勢が弱い樹では早期摘果を心がけ、着果数を制限し新梢生育を促進しましょう。また、樹冠の上部に空枝を積極的に配置し、葉面積を確保して樹勢の回復を図りましょう。

(2) ナシ

ア 仕上げ摘果

予備摘果が終了しだい仕上げ摘果作業に入り、満開後50日頃までに実施しましょう。仕上げ摘果では、最終着果量の2～3割増とし、樹勢を考慮しながら着果量を調節します。

ひょう害を受けた園では、傷の状況を確認しながら丁寧に摘果を行きましょう。

イ 新梢管理

満開後45～60日頃を目安に、側枝基部に発生した立ち枝新梢をせん除します。主枝・垂主枝上から側枝の更新候補となる新梢の発生が少ない場合は、側枝基部の側面から発生した新梢を1本残り利用します。また、予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに発育良好な新梢を残して1本に整理します。満開後60日以降は樹勢低下や果実糖度の低下に結びつく可能性があるので注意しましょう。

(3) リンゴ

ア 摘果

予備摘果終了の目安は満開30日後（果樹研究所「ふじ」は6月4日）なので、遅れている

園地は早急に実施しましょう。

仕上げ摘果は、満開後60日まで（果樹研究所「ふじ」は7月4日）を目安に実施しましょう。仕上げ摘果では、小玉果や変形果、障害果、病害虫果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残します。

結実の少ない園地は着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に最小限度の摘果を行います。

ひょう害を受けた園地では、傷の状況を確認しながら丁寧に摘果を行います。

仕上げ摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」「王林」「さんさ」「緋のあづま」等の品種は4頂芽に1果を目安に実施します。

果形の揃いが悪い園地では、仕上げ摘果でやや多めに着果させ、修正摘果で調整しましょう。

イ カルシウム剤の葉面散布

ビターピットの発生は、樹勢が強いまたは着果量が少ないことが原因で果実が大玉となりやすい場合や、土壌の過乾燥や過湿によりカルシウムの吸収が阻害される場合に助長されます。このような場合は、発生防止のためにカルシウム剤を葉面散布してください。

(4) ブドウ

摘穂は樹勢が落ち着いた樹ではできるだけ早めに行いますが、極端に強い新梢は生育抑制を図るため開花結実後の生育を見ながら行います。花穂整形は、花が1～2輪咲き始めた頃が適期とされますが、栽培面積、労力等の条件で整形作業に長時間を要する場合は開花前5日頃から始めます。花穂整形は遅くとも満開期までには終了してください。

「巨峰」（無核栽培）におけるフルメット液剤の使用に当たっては、ジベレリン1回目処理時か2回目処理時のいずれか1回の使用とし、使用基準を遵守してください。樹勢が強すぎる場合や開花期が低温の場合は、着粒安定を目的としてジベレリン1回目処理時に加用します。果粒肥大促進を目的としてジベレリン2回目処理に加用する場合は、着色遅延が起こりやすいので、着果過多にならないように注意してください。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、斑点落葉病、輪紋病、腐らん病

6月上旬は褐斑病菌（子のう胞子）の飛散盛期となり、重要防除時期にあたります。本病の発生が多い園地では、防除暦に準じ6月上旬の防除を徹底しましょう。

6月は梅雨期となり、気温も上昇してくるため、輪紋病に感染しやすくなります。6月中旬の輪紋病の防除を徹底しましょう。

また、県内において腐らん病の発生が増加傾向にあるため、防除を徹底しましょう。枝腐らんは健全部を5cm以上含めて切り取ります。胴腐らんは周囲の健全部を5cm含めて削り取り、トップジンMペースト、トップジンMオイルペースト、ベフラン塗布剤3の原液のいずれかを塗布します。伐採した被害枝幹および削りとった病患部は適切に処分してください。

イ モモせん孔細菌病

せん孔細菌病の春型枝病斑の発生量は中通り、会津で「やや多」（病害虫防除所）であり、注意が必要です。第一次伝染源の春型枝病斑や第二次伝染源の発病葉および果実を取り除くとともに、発生が見られる園地では6月10日頃にせん孔細菌病防除剤を散布します。ただし、早生種では収穫前日数に十分注意する。果実被害が多い園地では、仕上げ摘果終了後速やかに袋掛けを行ってください。なお、病害虫防除所から発表（5月31日付け）された病害虫発生予察情報注意報第2号（モモせん孔細菌病）を参照し、防除の徹底を図ってください。

ウ モモ灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、他の核果類やモモの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分してください。

エ ナシ黒星病

6月1日現在、果樹研究所の「幸水」無防除樹における黒星病の新梢葉発病率は2.5%と平

年（1.9%）よりやや多い状況となっています。また、県内の発生量は「やや多」（病害虫防除所）であることから、今後注意が必要です。罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を徹底するとともに、6月中は黒星病防除剤の散布間隔が10日以上あかないように散布してください。また、散布むらのないよう十分量を散布しましょう。なお、病害虫防除所から発表（5月31日付け）された病害虫発生予察情報注意報第2号（ナシ黒星病）を参照し、防除の徹底を図ってください。

（2）虫 害

ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキ第1世代の防除適期は6月2半旬頃と推測されます。フェロモントラップによる予察調査を行っている場合は、誘殺盛期から10日後頃が防除適期になりますので、この時期に防除を徹底しましょう。

イ モモハモグリガ

第2世代の防除適期は6月3半旬頃になると推測されます。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意してください。

ウ ナシヒメシクイ

第2世代の防除適期は7月1半旬～7月3半旬頃になると推測されます。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシでの果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。

エ カメムシ類

山間および山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

オ モモノゴマダラノメイガ

本種の発生が多い地域では、この時期の防除を徹底しましょう。

表1 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成24年6月1日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシクイ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	6月6日	6月11日	6月23日	7月2日
平年並み	6月5日	6月11日	6月27日	7月7日
2℃低い	6月8日	6月14日	7月4日	7月15日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：4月27日、ナシヒメシクイ：5月5日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。